

**公的年金に依存しない  
自分年金を準備するための  
入門書  
(マニュアル)**

**著者：松本 崇裕**

## 今すぐプリントアウトを

このレポートは非常にボリュームがあります。PCで見ているだけでは非常に目がつかれ、それだけであなたを疲れさせることになってしまいます。

特に保険のシミュレーション（試算表）の部分は、数字を比較する上でもまずプリントアウトをしてください。そして片手に蛍光ペンを持ってあなたが重要だと思うところをマークして行ってください。

きっとこれを読み終わるころには、蛍光色でいっぱいになっているはずです。それがあなたの今後の資産設計にとって大事なところですよ。

## この入門書を作った理由・・・

私はジブラルタ生命という外資系生命保険会社で約6年間勤務後、K2 Assuranceに参画しました。そして私自身は海外保険を契約して約10年と海外保険と日本国内の保険、両方のメリット、デメリットを知っています。

K2に入ってから、海外のファンド会社や保険会社と一緒に仕事をしているので、日本の財政問題、年金問題と関係して、日本の生命保険といういびつな市場も否応なしに知ることになります。

そして海外の生命保険と日本の生命保険の貯蓄性と保障性の差は愕然とするものです。

この入門書はそんな日本と海外の生命保険を客観的に知ってもらい、その問題点を皆さんがご自身で解決するためのキッカケとしてもらえることを願って書き上げました。

海外の保険について5つの入門書を用意しています。全て保険の用途別に・・・

#### 入門書1：死亡保障

『家族のために死亡保障を準備するための入門書（マニュアル）』

<http://xn--ruqp6i4uehy0abyifxch06cstt.com/manualdl20/>

#### 入門書2：年金準備

『公的年金に依存しない自分年金を準備するための入門書（マニュアル）』

<http://xn--ruqp6i4uehy0abyifxch06cstt.com/manualdl21/>

#### 入門書3：学資保険

『子供のためのベストな学資保険に入るための入門書（マニュアル）』

<http://xn--ruqp6i4uehy0abyifxch06cstt.com/manualdl22/>

#### 入門書4：金利

『保険で銀行の3600倍の金利をつけるための入門書（マニュアル）』

<http://xn--ruqp6i4uehy0abyifxch06cstt.com/manualdl23/>

#### 入門書5：退職金運用

『退職金を枯渇させないで老後を生きるための入門書（マニュアル）』

<http://xn--ruqp6i4uehy0abyifxch06cstt.com/manualdl24/>

そして今回は「自分年金を準備するための方法」の話です。

# 毎月の余剰資金からする積立運用

お金は2種類に分けられます。

- ・ 今銀行にある金融資産
- ・ これから入ってくる収入からの余剰資金（生活費などを引いた分）

今銀行にまとまった資金があるのであれば、一時払でまとめて運用にまわした方がすぐに金利をつけていけるのでいいですね。一時払いでの運用については、

※『保険で銀行の3600倍の金利をつけるための入門書（マニュアル）』

<http://xn--ruqp6i4uehy0abyifxch06cstt.com/manualdl23/>

を読んでください。

それに対してまとまった資金が現在はないけれど、働いていて収入がある。そこから生活費や趣味などお金を使った後に残るお金を貯めていくという方もいます。ただお金を貯めるのに、金利の付かない銀行に置いておいて、貯まってから何かをしていたのではその間の時間的価値（金利）がもったいないです。ですので、お金を貯めながらちゃんと運用するなり金利をつけるなりしていこうというのが積立運用です。

ただこれを日本国内の商品でしようと思うと、

- ・ 財形
- ・ 積立貯蓄
- ・ るいとう
- ・ 投資信託
- ・ 個人年金保険（定額、変額）
- ・ ドル建て保険（終身、養老）
- ・ 変額保険

- ・企業型確定拠出年金（401k）
- ・個人型確定拠出年金（iDeCo）
- ・つみたてNISA

などありますが、

- 金利がつかない
- 増える投資先がない
- 選択肢が少ない
- フレキシビリティ（柔軟性）がない

という状況なので、効率的にお金を貯めていくためには（年金準備、学資準備など）、海外にある積立年金を活用しようということになります。

またしっかりとお金を貯めて増やしておくことで、公的年金に依存せず、年金受給額が減ったり、受給開始年齢が上がったりした時にも安心して余生をすごすことができます。

## 2つの海外積立年金

海外積立年金は投資先と保証金利によって2種類に分かれています。

- 1) 変額プラン
- 2) 元本確保型プラン

いずれも日本にある同類の商品よりも全然良い数字と商品設計になっていますが、どちらの方がご自身に合うか考えながら、以下それぞれの特徴を読んでみてください。

ではそれぞれの特徴をご説明します。

# 1) 変額プラン

変額プランは「変額」という名前の通り、投資先は200本のオフショアファンド（海外のファンド）からポートフォリオを組んで投資ができます。日本でいう、変額個人年金や401k（企業型確定拠出年金）、iDeCo（個人型確定拠出年金）のようなものですね。ですから運用次第で、大きく殖えることも期待できる一方で、積み立てた金額よりも少なくなることもあります。

ここでポイントとなるのが

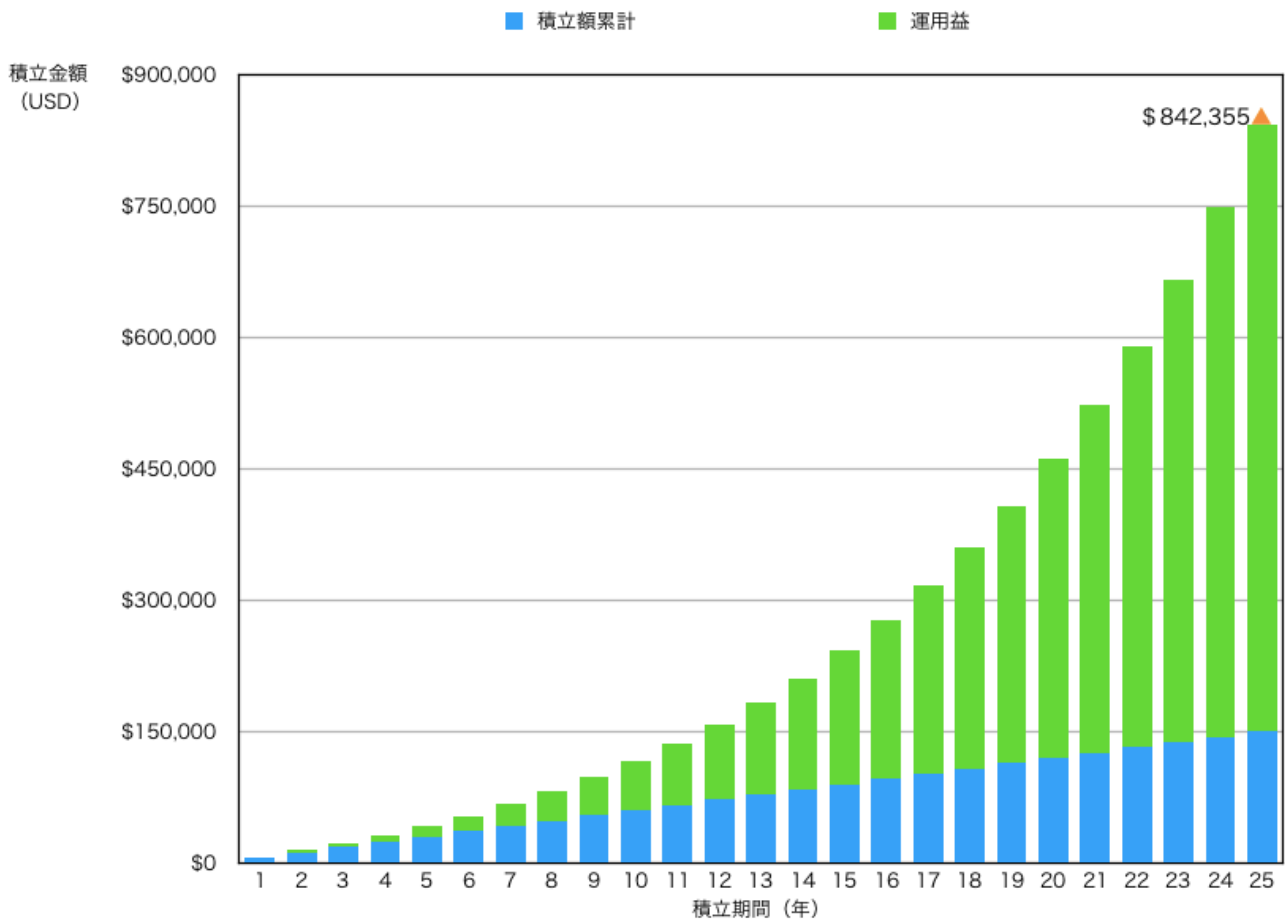
- ・ドルコスト平均法
- ・複利運用

です。

**ドルコスト平均法**というのは、金融の教科書には必ず出てくるのですが、毎月「一定額」を必ず投資すると決めておくことで、投資対象株価が安い時にはたくさんの数量を買え、逆に高い時には少しの数量を買うというのを自動でしてくれるものです。これは投資家が皆さんしたいことですが、今が高い、安いという「主観」が入るとできなくなってしまうので、「一定額」を積み立てると最初から決めておくことが大事なんです。

次に**複利運用**ですが、増えた分も再投資にまわして、投資元本をどんどん増やしていくことで、増えた分にも金利をつけて更に増やしていくというものです。

複利の効果を視覚的に分かるようにグラフ化すると、このように指数関数的に増えていきます。



※シミュレーション、各満期金額については手数料を引いた後の金額になります。

「複利」の反対語に「単利」という言葉がありますが、銀行の定期預金、債券の金利、毎月分配型の投資信託（分配金を投資元本から払い出されることも）などがこれに当たります。出てきた金利を今使うわけでもないのに、再投資されないような商品に置いておくと、効率が悪いですね。また毎年の利益に対して分離課税がかかり、約20%を税金で持っていかれるので、そりゃ増えないよって話です。

次に投資先について。日本の変額個人年金や401k、iDeCo、つみたてNISAは投資先が限られてしまっていて、増やすための良い投資先がないという状態もよくありますが、この【変額プラン】の投資先は世界中にある200本のファンドなので、何かしら今後の相場の中で投資したい先があります。

更にこのプランでは毎月積み立てる金額により、以下の金利が毎月の積立金額に上乘せされます。

※計算しやすいようにUSD1=100円として計算します。

月額 USD150 (約1.5万円) : 1%

月額 USD300 (約3万円) : 2%

月額 USD450 (約4.5万円) : 3%

月額 USD600 (約6万円) : 4%

月額 USD1125 (約11万円) : 5%

日本では、もはや0%以下（マイナス金利政策）となった金利の中で、海外では、毎月USD150以上積み立てると最低でも1%の金利がもらえます。積立期間は10~25年で設定できるので、25年で設定すれば25年間、1~5%の固定金利が必ずもらえると保証されています。

また、プランを一定期間、当初の予定通り積み立て続ければ、ロイヤルティボーナスをもらうことができます。

<ロイヤルティボーナス>

10年経過時 : 7.5%

15年経過時 : 5%

20年経過時 : 5%

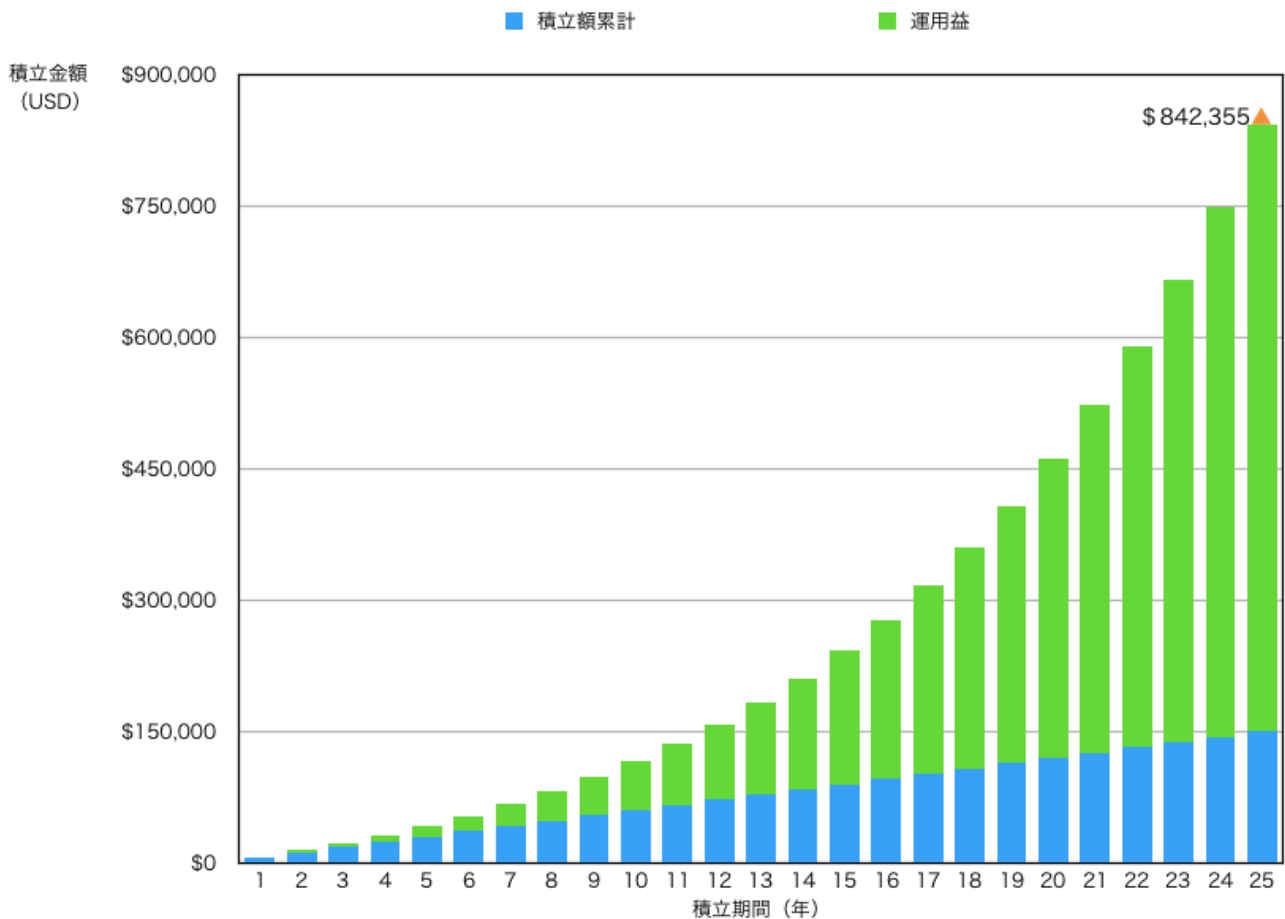
25年経過時 : 5%

※その期間に積み立てた額に対する%

そして弊社が今まで推奨してきたポートフォリオでの年間平均利回りが**11.62%**なので、この運用益が先ほどの各ボーナス金利にプラスされ、手数料などをすべて差引いた後の運用益が毎年もらえていることとなります（2020.8月時点）

毎月USD500（約5万円）の積み立てでシミュレーションするとこうなります。





※シミュレーション、各満期金額については手数料を引いた後の金額になります。

複利運用の毎年11.62%なので、25年間で実際に積み立てた金額が **USD 150,000 (約1,500万円)** でも、運用と固定金利によって **USD 842,355 (約8,424万円)** になっています (**5.6倍**)。

こちらは弊社が現在 (2020.8) 推奨しているポートフォリオの内訳です。

- 世界株 (グローバルテクノロジー①) : 10%
- 世界株 (グローバルテクノロジー②) : 10%
- 世界株 (グローバルテクノロジー③) : 10%
- 世界株 (不動産) : 10%
- 世界株 (米国) : 10%
- 世界株 (ロボティクス) : 10%

世界株（水資源）：10%  
中国株／香港株：10%  
新興国株（BRICs、東南アジア、欧州、南米）：10%  
世界株（金鉱山）：10%

このように投資先を10本に分散させることで、中長期で安定したりターンを狙っていけます。なおこのポートフォリオは契約者がいつでも自由に日本語のオンライン画面から変更できます（手数料なし）。

この【変額プラン】は契約後にプランの見直しができるというのも魅力です。例えば、最長の25年という積立期間で契約をしても、3年目からは・・・

- ・積立額の減額
- ・積立のSTOP
- ・積立た資金の一部引出し

が、ある一定の条件の元で自由にできます。つまり、その時の収入状況や、家族状況などに応じてフレキシブルにプランの見直しができるわけです。これだと、お子さんの学費や家購入時には積立た資金を引出して使うなんてこともできますね。将来のための蓄えですが、長い人生、この先何があるかなんて誰にもわかりませんから、柔軟性ある商品設計になっています。

## 2) 元本確保型プラン

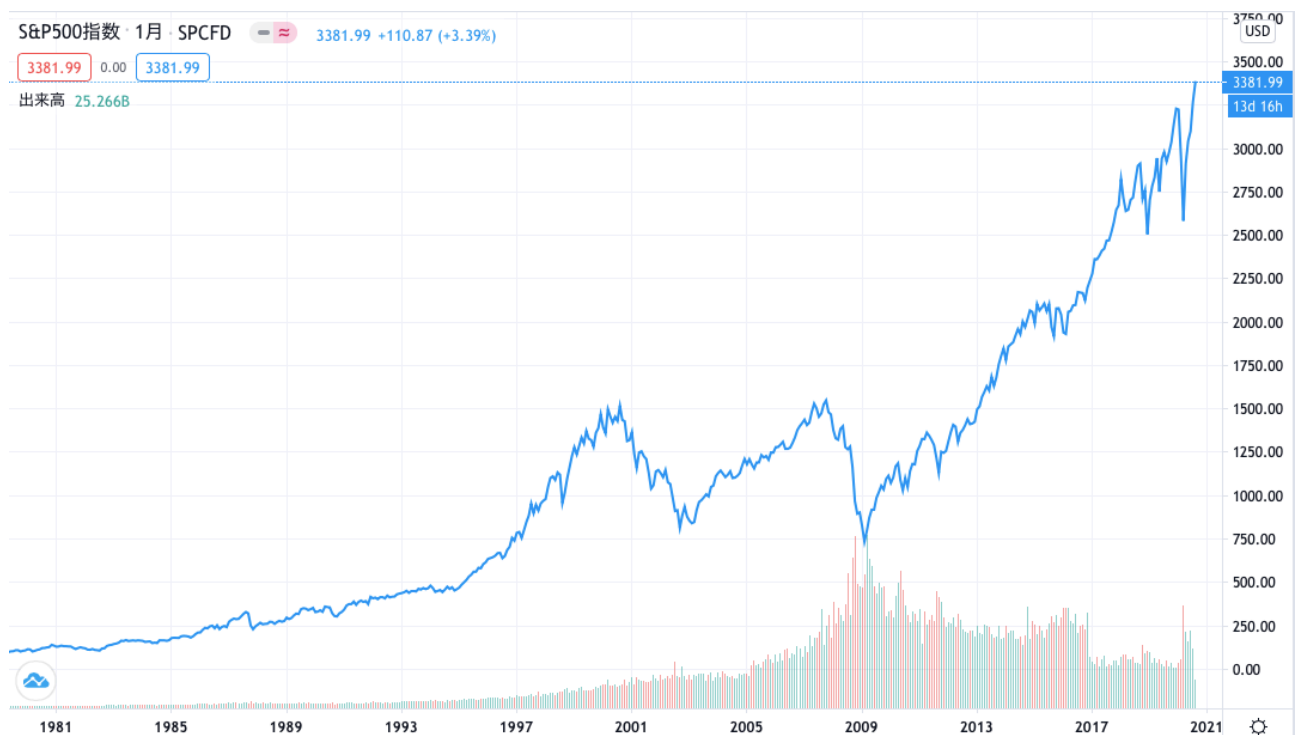
【元本確保型プラン】は、3つの期間で以下の元本（積立総額）がそれぞれ保証されます。

10年満期：100%保証  
15年満期：140%保証  
20年満期：160%保証

例えば15年満期プランの場合、毎月USD500（約5万円）を15年間積み立てると、積立総額のUSD90,000にUSD36,000（+40%）が上乗せされ**USD126,000（約1,260万円）**で満期を迎えます。契約の当初通りに積み立てれば、すべての手数料を引いた上で、積立金に対して最低140%で満期を迎えることが保証されています（ここから引かれるものはありませんので、これが純粋に契約者の利益）。

更に、これは最低保証なので仮にこの積立プランの投資先であるS&P500（米国株インデックス）が上昇していた場合は、どちらか高い方を満期時に受け取ることができます。

これが過去のS&P500の推移（チャート）ですが、全然日本株（日経平均株価）と違いますよね（笑）。



過去あらゆる時点からの15年間（積立期間）の年平均リターンを取ったところ、マイナスになった期間はありませんでしたし、多くの期間で二桁リターンなどになっていることがわかります。

## S&P 500 インデックス – 年率平均収益実績

期間	年率平均収益	期間	年率平均収益	期間	年率平均収益	期間	年率平均収益
1950 - 1964	11.39%	1965 - 1979	1.62%	1980 - 1994	10.13%	1995 - 2009	6.09%
1951 - 1965	10.57%	1966 - 1980	2.59%	1981 - 1995	10.61%	1996 - 2010	4.87%
1952 - 1966	8.45%	1967 - 1981	2.85%	1982 - 1996	12.73%	1997 - 2011	3.59%
1953 - 1967	8.97%	1968 - 1982	2.54%	1983 - 1997	13.73%	1998 - 2012	2.60%
1954 - 1968	10.01%	1969 - 1983	3.13%	1984 - 1998	14.31%	1999 - 2013	2.75%
1955 - 1969	6.46%	1970 - 1984	4.06%	1985 - 1999	15.58%	2000 - 2014	2.27%
1956 - 1970	4.82%	1971 - 1985	5.68%	1986 - 2000	12.99%	2001 - 2015	2.95%
1957 - 1971	5.35%	1972 - 1986	5.92%	1987 - 2001	10.92%	2002 - 2016	4.55%
1958 - 1972	7.48%	1973 - 1987	5.04%	1988 - 2002	8.83%		
1959 - 1973	3.86%	1974 - 1988	7.22%	1989 - 2003	9.68%		
1960 - 1974	0.90%	1975 - 1989	11.55%	1990 - 2004	8.55%		
1961 - 1975	2.97%	1976 - 1990	9.03%	1991 - 2005	9.26%		
1962 - 1976	2.75%	1977 - 1991	9.46%	1992 - 2006	8.50%		
1963 - 1977	2.77%	1978 - 1992	10.67%	1993 - 2007	8.43%		
1964 - 1978	1.66%	1979 - 1993	11.09%	1994 - 2008	4.50%		

年率平均：  
 複数年にわたる成長率から1年あたりの幾何平均を求めたもの（複利前提）  
 例) 100万円→3年後160万円  
 $100 \times (1+x) \times (1+x) \times (1+x) = 160$   
 $3\sqrt{1.6} = 1.1696$  (1.7%)

1) 配当再投資を含まない年間平均収益。1月1日から12月31日。  
 過去の実績は必ずしも将来の成績の指標とはなりません。ユニット価格は上昇するだけでなく下落する可能性もあります。  
 市場通貨の変動結果として、投資の価値とそれに付随する収入は同様に下落する可能性があり、投資元金を回収できない場合があります。この報告書に記載されたものは、市場への適合性の指標と解釈されるべきものではありません。  
 投資をご検討されている場合は、専門家へご相談ください。

## 海外積立年金を始める手順

- 1) プランの仕組み、手数料などを理解しましょう。  
 別途資料がありますので、こちらまでご連絡ください。  
<http://k2-assurance.com/contact/>
- 2) 毎月積み立てる金額、年数を決めご連絡ください。

### <変額プラン>

最低毎月積立額：USD100（約1万円）～  
 積立年数：10年、15年、20年、25年

### <元本確保型プラン>

最低毎月積立額：USD200（約2万円）～

積立年数：10年、15年、20年

- 3) <変額プラン>の場合は、投資先ポートフォリオをどうするか？を決める。といってもほとんどの方が弊社が推奨しているポートフォリオで運用されています。同じポートフォリオにしてもいいですし、ご自身の相場観で決めてもらっても大丈夫です。
- 4) 申込はご住所や電話番号などのいくつかの情報と、以下の3つの証明書を弊社までメール（写メ可）かFAXにてお送りください。
  - ・ パスポート
  - ・ 運転免許証 or 住民票 or 公共料金等の明細（3ヶ月以内）
  - ・ 銀行の通帳（銀行名、口座名義人名、最終記帳ページ）
- 5) 弊社が申込を電子申請代行  
Webにて申込ができますので、弊社が代行して申込んだ後、申込内容をPDFにしてメールをお送りします。書類記入作業はありません。
- 6) クレジットカード経由で引き落とし開始。
- 7) オンライン登録をして、いつでも運用状況をチェックできるようにしましょう（弊社が登録代行）。

最後に・・・

「海外積立年金」の目的は「お金を殖やす」ことであると同時に、「通貨分散」のために資産の一部を外貨（米ドル）を持つことと、日本国内ではなく

「海外に一部の資産を持つ」ことも出来るため、リスク分散の意味でとても重要です。

日本は昭和21年に「預金封鎖」と「デノミネーション」を行った過去があります。これをまた、この時代にするかどうかはわかりませんが、“するかしないか”ということと“安心”であることは別の問題です。

皆さんも既に、今後の日本（特に経済面）に不安材料があることはお感じになっているのではないかと思います。不安材料がある以上、全資産を日本国内に、すべて日本円で持つ、または形成するのではなく、一部を「海外に」「外貨で」リスク分散しておくことをオススメします。すべてを海外にということではありません。分散です。そのために「海外積立年金」は有効な手段となります。

「お金を殖やす」目的において、長期複利運用することは資産形成ではとても有利なことです。時間は最大の武器ですから、1日でも早く“何らかの準備”をすることをオススメします。

※本入門書を動画（Youtube）でも解説しています（無料）。

[https://youtu.be/\\_zQ7d4dABcM](https://youtu.be/_zQ7d4dABcM)

K2 Assurance  
保険アドバイザー 松本 崇裕  
[info@k2-investment.com](mailto:info@k2-investment.com)  
<http://k2-assurance.com>